

# 出雲方言の格と情報構造

平子達也

(南山大学)

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

令和2年度 第1回研究発表会「格・情報構造(本土諸方言)」

# 謝辞

いつも調査にご協力をいただいている、出雲地域の皆様、特に雲南市木次町日登の皆さまに感謝申し上げます。

本研究は、本プロジェクトの他に、JSPS科研費JP17K13465（代表者：平子）・JP19H01255（代表者：下地理則氏）の助成を受けています。

# 今日のテーマ：出雲方言の格助詞=o

- 格助詞=oは他動詞目的語を標示する

(1) 【「誰が机を壊したの？」と聞かれて】

*taroo=ga { cikue=o / cikue=Φ } meeda=ga*

「太郎が机を壊した」

# 出雲方言の格助詞=oの現れには、情報構造とA・Pの名詞句階層上の位置とイントネーションが関係する

1. 当該の目的語名詞句の直前に韻律句の境界( | )がない場合  
→ 以下の条件を満たせば無助詞(=oなし)が許容される
  - a. 目的語名詞句が焦点ではない
  - b. A・Pの名詞句階層上の位置: 主語名詞句 > 目的語名詞句

(2) 【「今、何しているの？」の答えとして】

*o[ra=wa | [i]ma i[no] mito]o=ga*

「俺は今犬を見ているよ」

# 出雲方言の格助詞=oの現れには、情報構造とA・Pの名詞句階層上の位置とイントネーションが関係する

2. 当該の目的語名詞句の直前に韻律句の境界(|)がある場合

→ いつでも無助詞(=oなし/=φ)を許容

- a. 当該の目的語名詞句(を含む述語句)は(おそらく)焦点となっている
- b. 名詞句の名詞句階層上の位置は(おそらく)関係ない

(3) e[no]=ga | [seNse mito]o=ga nasi[te]daa=ka  
「犬が先生を見ているけど、どうしてだろう」

# 議論の前提

- 今回扱うのは雲南市旧木次町日登方言(日登方言)
  - 島根県出雲地域諸方言(出雲方言)の下位方言の1つ
- 話者1名に対する調査の結果
  - ただし、近隣の方言でも似たような傾向は見て取れる
  - 当該方言の「文法」として機能しているものと判断
- 基本語順はSOV
- 主格対格型
  - 有標主格(=ga/ =no交替あり、平子2016を参照)
  - 対格は=o/=Φ

# 目的語の**焦点化**: **助詞=0**を用いる

- 対比焦点

(4) 【「太郎は湯飲みを割ったの？」に対して】

*iN.ja taroo=wa { sara=0 / \*sara } meeda=wa*

「いや、太郎は皿を割ったんだよ」

- 情報焦点 (WH応答)

(5) 【「太郎は何を割ったの？」に対して】

*taroo=wa { sara=0 / \*sara } meeda=wa=ne*

「太郎は、皿を割ったんだよ」

## (つづき)

- 情報焦点 (WH)

(6) *taroo=wa* { *naN=o* / *nani* } *meeda=ka=ne*

「太郎は何を割ったの？」

- 中立叙述 (文焦点)

(7) 【「大きな音がしたけどどうしたの？」に対して】

*taroo=ga* { *sara=o* / *sara* } *meeda=ga=ne*

「太郎が皿を割ったんだよ」



# 焦点化に伴う=0の現れやすさ(必須度)

- 琉球諸方言における**焦点助詞の現れ方に関する階層**  
(Shimoji 2018: 110)との関係

Shimoji(2018)	Contrastive Focus (対比焦点)	>	WHA Focus (WH応答)	>	WHQ Focus (WH)
出雲方言の 目的語標示	=0/*Φ		=0/*Φ		=0/Φ

## 出雲方言の格助詞=0は、**述語焦点・文焦点のマー** **カー**として機能している可能性がある

- **述語焦点・文焦点**となる文脈を設定して、他動詞文を求めた場合、**=0ありの形式が第一回答**として現れる傾向

(8) 【「大きな音がしたけど、何があったの？」の答として】

*taroo=ga { **cikue=0** / ?cikue } meeda=ga*

「太郎が机を壊した」

- **文焦点・述語焦点となる文脈**で、**無助詞が許容しにくい**場合でも、目的語以外の要素を焦点とすれば(**他要素焦点**)、**無助詞が許容**される

(9) 【「**誰が**机を壊したの？」と聞かれて】

*taroo=ga { cikue / cikue=o } meeda=ga*

「**太郎が**机を壊した」

- **=o**の現れについての階層??

対比 > WH応答 > WH疑問

> 文焦点・述語焦点 > 他要素焦点

# 格助詞=のの現れと主語名詞句と目的語名詞句の名詞句階層上の位置との関係

- 以下の例は、少なくとも目的語が焦点ではないもの

# 無助詞が許容される名詞句階層上の位置関係

## 主語名詞句 > 目的語名詞句

		P					
		1st	2nd	固有	人間一般	動物	無生物
A	1st	—	o/φ	o/φ	o/φ	φ/o	φ/o
	2nd	o/*φ	—	o/φ	o/φ	φ/o	φ/o
	固有	o/*φ	o/*φ	o/?φ	o/φ	φ/o	φ/o
	人間一般	o/*φ	o/*φ	o/*φ	o/φ	o/φ	φ/o
	動物	o/*φ	o/*φ	o/*φ	o/*φ	o/φ	φ/o
	無生物	—	—	—	—	—	o/*φ

## 主語名詞句 > 目的語名詞句

- (10) a) *ora=wa ima { tomodaci=o / tomodaci } mitoo=wa*  
「俺は今(俺の)友達を見ている」(1st > 人間名詞)
- b) *ora=wa ima { ino / ino=o } mitoo=ga*  
「俺は今犬を見ているよ」(1st > 動物名詞)
- c) *ora=wa ima { deNsja / deNsja=o } mitoo=ga*  
「俺は今電車を見ているよ」(1st > 無生物名詞)

## 主語名詞句 > 目的語名詞句

(11) *ora=no tomodaci=wa ima { ino=o / ino } mitoo=jo*  
「俺の友達は犬を見ている」(人間名詞 > 動物名詞)

(12) *ino=wa ima { soto=o / soto } mitoo=wa*  
「犬は今外を見ている」(動物名詞 > 無生物名詞)

## 主語名詞句 ≦ 目的語名詞句

(13) *taroo=wa ima { omae=o / \*omae } mattoo toko=da*  
「太郎は今お前を待っているところだ」(固有 < 2nd)

(14) *ino=ga zitto { taroo=o / \*taroo } mitoo=ga, hara=ga hetta=da nai=ka*  
「犬がじっと太郎を見ているけど、  
おなिकासいたのではないか」(動物 < 固有)

cf. (14') *ora= wa ima { taroo=o / taroo } mitoo*  
「俺は今太郎を見ている」(1st < 固有)



## 主語名詞句 $\leq$ 目的語名詞句

(15) *ino=ga zitto ora=no { tomodaci=o / \*tomodaci } mitoo=wa*

「犬がじっと俺の友達を見ている」(動物 < 人間)

cf. (15') *ora=wa ima { tomodaci=o / tomodaci } mitoo=wa*

「俺は今友達を見ている」(1st > 人間)

出雲方言の目的語標示で無助詞(Φ)が許容されるか否かは、  
**主語名詞句**と**目的語名詞句**との**名詞句階層上の相対的な位置関係**  
 (相対的有生性:下地 forthcoming)による

		P					
		1st	2nd	固有	人間一般	動物	無生物
A	1st	—	○/Φ	○/Φ	○/Φ	Φ/○	Φ/○
	2nd	○/*Φ	—	○/Φ	○/Φ	Φ/○	Φ/○
	固有	○/*Φ	○/*Φ	○/?Φ	○/Φ	Φ/○	Φ/○
	人間一般	○/*Φ	○/*Φ	○/*Φ	○/Φ	○/Φ	Φ/○
	動物	○/*Φ	○/*Φ	○/*Φ	○/*Φ	○/Φ	Φ/○
	無生物	—	—	—	—	—	○/*Φ

# 目的語名詞句の直前に韻律句の境界( | )がある場合、無助詞が許容されることがある

(16) 【「犬は誰を見ているの？」に対して】

*e[no]=ga | [seNse mito]o=ga nasi[te]daa=ka*

「犬が先生を見ているけど、どうしてだろう」

(17) a) *[ta]roo=ga iN[ma-kata]=kara omae=o mito]oga | naN[de] daa=ka*

b) *(taroo=ga) iN[ma-kata]=kara | o[mae mito]oga | naN[de] daa=ka*

「太郎がさっきからお前を見ているけど、何故だろう」

# 助詞=οとイントネーションの関係は 今後の課題

- 目的語名詞句前への韻律句境界の挿入は、おそらく目的語名詞句（あるいはそれを含む述語句）の焦点化の機能を持つ（cf. 上野 2009）
  - 詳細は未調査
- 目的語の焦点化において、助詞=οとイントネーション（韻律句境界の挿入）とが相補的に機能するか？

焦点化に関わる韻律句形成過程と(格)助詞の有無の関係

## 出雲方言の格助詞=oの現れには、情報構造、A・Pの名詞句階層上の位置、イントネーションが関係する

1. 当該の目的語名詞句の直前に韻律句の境界( | )がない場合には、以下の条件を満たせば無助詞が許容される
  - a. 目的語名詞句が焦点ではない
  - b. A・Pの名詞句階層上の位置: 主語名詞句 > 目的語名詞句
2. 当該の目的語名詞句の直前に韻律句の境界( | )がある場合には、無助詞が許容される
  - a. 当該の目的語名詞句(を含む述語句)は(おそらく)焦点となっている
  - b. 名詞句の名詞句階層上の位置は(おそらく)関係ない

焦点化に関わる韻律句形成過程と(格)助詞の有無の関係

# 参考文献

上野善道(2009)「句頭の上昇は語用論的意味による」『月刊言語』  
(特集:言語学的探求の行方) 38(12): 84 - 85

Shimoji, Michinori (2018) “Information structure, focus, and Focus-Marking Hierarchies”. 『言語研究』154: 88-122.

下地理則 (forthcoming) 「日琉諸語の格体系: 概観と類型化」、木部暢子・竹内史郎・下地理則編『日本語の格表現』くろしお出版

平子達也(2016)「出雲方言における格助詞「ガ」と「ノ」について」『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 出雲方言調査報告書』69 - 77.